




ふりがな 氏名	かなえ りさ	都道府県	東京都	
	金江 理紗			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学芸術学部放送学科 / 学生 ・NPO 法人グリーンズ / インターンシップ生 			
私のESD活動	アートプロジェクトの参加と「いかしあうつながり」 の実践			
関心・活動の SDGs	 			

活動の概要

アートを学び、社会を彫刻する

私が昨年度参加した Relight Project/Committee の前身「光の蘇生プロジェクト」は、東日本大震災を契機に消灯したアーティスト・宮島達男の作品《Counter Void》について、3.11 以後の社会にふさわしいカタチでの再点灯を検討するために、講座・ワークショップ等の様々なプログラムを実施。その後「Relight Project」と名を改め、アートと社会の関係性について実践的に学ぶ市民大学「Relight Committee」と再点灯のためのアートプロジェクト「Relight Days」が立ちあがります。

人を思いやれる想像力と、出口のない問題を突破する創造力の二つを獲得できるアート。まさに様々なバックグラウンドを持つ Relight Committee のメンバーと感想や意見を共有する時間は、そんなアートの価値を体現していました。そして Relight Days では、震災への思いを再び意識し「3.11 が〇〇している」ワークショップという形で残すことができました。

これらの活動は、より良い未来を直接的につくったわけではありません。しかし、主体的に学ぶこと、社会・自分・他人と対話を繰り返すこと自体が、より良い未来をつくるための想像力を養うことになると考えられるようになりました。

・「Relight Project」 <https://relight-project.org>

・「NPO 法人グリーンズ」 <https://greenz.jp>

今後の活動の展望と周囲や社会への還元

Relight Project 終了後、私は「一人ひとりが『ほしい未来』をつくる、持続可能な社会を目指す」NPO 法人グリーンズにインターンとして関わることになり、現在も活動中です。その中で、グリーンズが掲げる合言葉『いかしあうつながり』について様々な人と考える機会を設けることができないか、多様な生き方、働き方を知れる機会をつくることはできないかなど考えていますが、まだ実現には至っていません。このコンファレンスの参加をきっかけに、そんな漠然としているアイデアを具体的なアクションとして起こしていきたいです。

また Relight Committee のように、答えのないもの＝アートを学ぶことを通して、社会やそれを構成する人、自分について考えることができるコミュニティや機会をつくっていきたくとも思っています。

正直なところ今はまだ、自分発信で何かをつくっていく段階には至っていません。色々な人と出会い、色々な考え方に触れながら、そして共により良い未来を創造できる仲間を見つけ切磋琢磨し合いながら、思い描く未来の実現に向けて、自分の考えを深めていきたいです。